



RaQuest Startup manual

by Sparx Systems Japan

RaQuest 5.1 日本語版 スタートアップ マニュアル



目次

1. はじめに.....	3
2. 初回起動時の流れ.....	4
2.1. RaQuest を起動する.....	4
2.2. プロジェクトの新規作成.....	5
3. RaQuest の設定と確認.....	7
3.1. 使用者の名前の確認・設定.....	7
3.2. 要求の状態遷移.....	8
3.3. 要求の状態の選択肢の確認.....	10
3.4. 特別な状態の設定の確認.....	11
3.5. 要求の種類を選択肢の確認.....	12
3.6. 要求カテゴリの設定.....	13
3.7. 組織と担当者の設定.....	14
3.8. ユーザ定義属性の設定.....	16
4. 要求の作成と管理.....	18
4.1. システムの目的・範囲・概要の入力.....	18
4.2. パッケージと要求の作成.....	19
4.3. 要求の一覧.....	24
5. 既存要求情報の取り込み.....	28
5.1. CSV インポート.....	28
5.2. Word アドイン.....	31
6. 要求への担当者の割り当てと関連付け.....	32
6.1. 担当者の割り当て.....	32
6.2. 要求の関係付け.....	35
7. 要求の状態管理.....	40
7.1. 要求の状態変更.....	40
7.2. 「検討済み」への状態変更.....	41
7.3. 「承認済み」への状態変更.....	43
7.4. 影響範囲の確認.....	45
8. 要求の見方の変更.....	47
9. 要求の出力.....	49
9.1. 印刷.....	49
9.2. ドキュメント出力.....	50

1. はじめに

ここでは、初めて RaQuest 日本語版を利用するユーザを対象に、起動から作業の流れを説明していきたいと思います。なお、ここで利用している画面は最新版とは異なる場合があります。

2. 初回起動時の流れ

2.1. RaQuestを起動する

まず、RaQuest を起動します。インストールが正常に完了している場合には、デスクトップに「RaQuest」のアイコンがありますので、これをダブルクリックしてください(図 1)。あるいは、プログラムメニューからも起動できます。



図 1

起動すると、図 2 のようなウインドウが表示されます。今回は初めての起動ということで、最初に RaQuest で利用するためのプロジェクトを作成します。

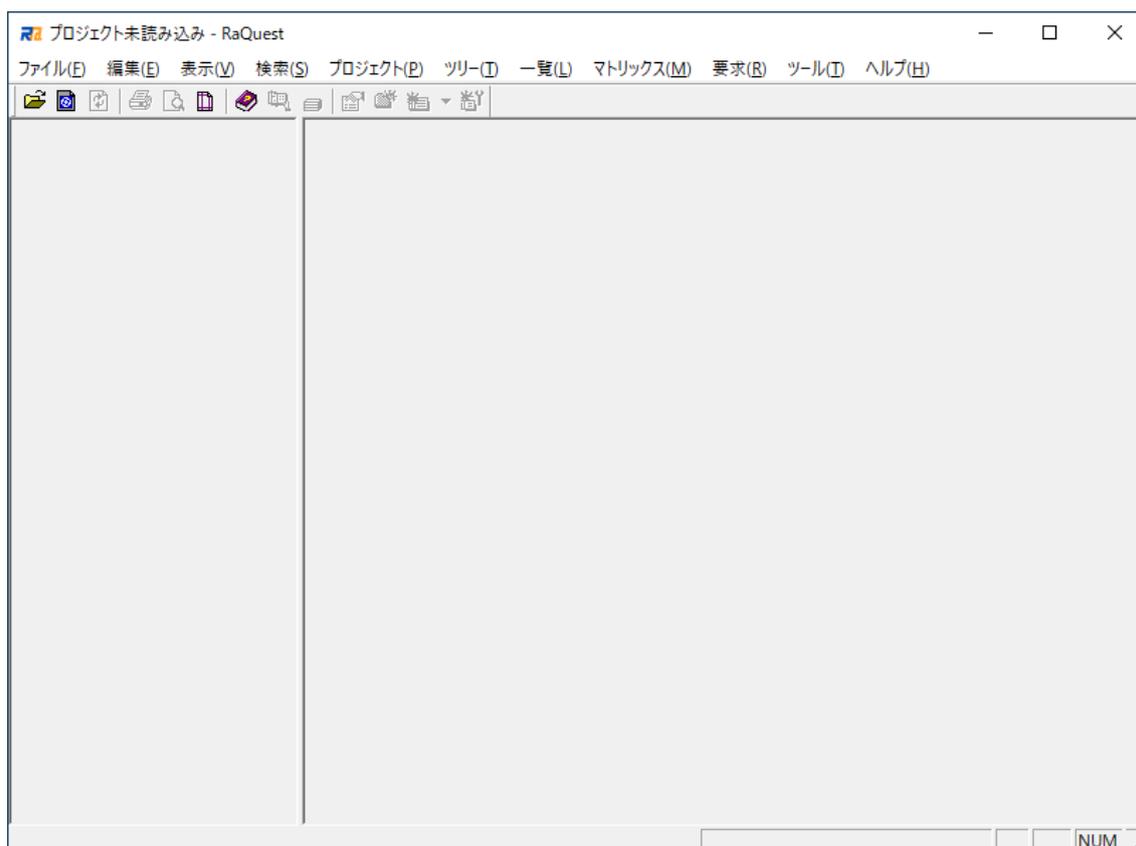


図 2

2.2. プロジェクトの新規作成

RaQuest のメインメニューから、「ファイル」→「新規プロジェクト」を選択します(図 3)。プロジェクトのファイル(QEAX ファイルまたは EAPX ファイル)の指定画面となりますので、ファイル名を指定し保存ボタンを押下してください。今回は RaQuestStartup.qeax を指定しました。

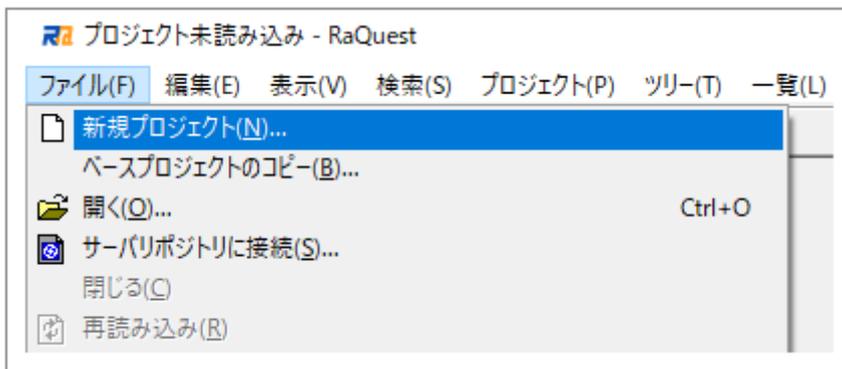


図 3

プロジェクトのファイルが新規作成され、図 4 のようなウインドウ表示になります。左側のプロジェクトタブに、ひとつだけ表示されている”要求”という名の「パッケージ」は、要求を管理する全体の基準となるパッケージ(ルートパッケージと呼びます)です。

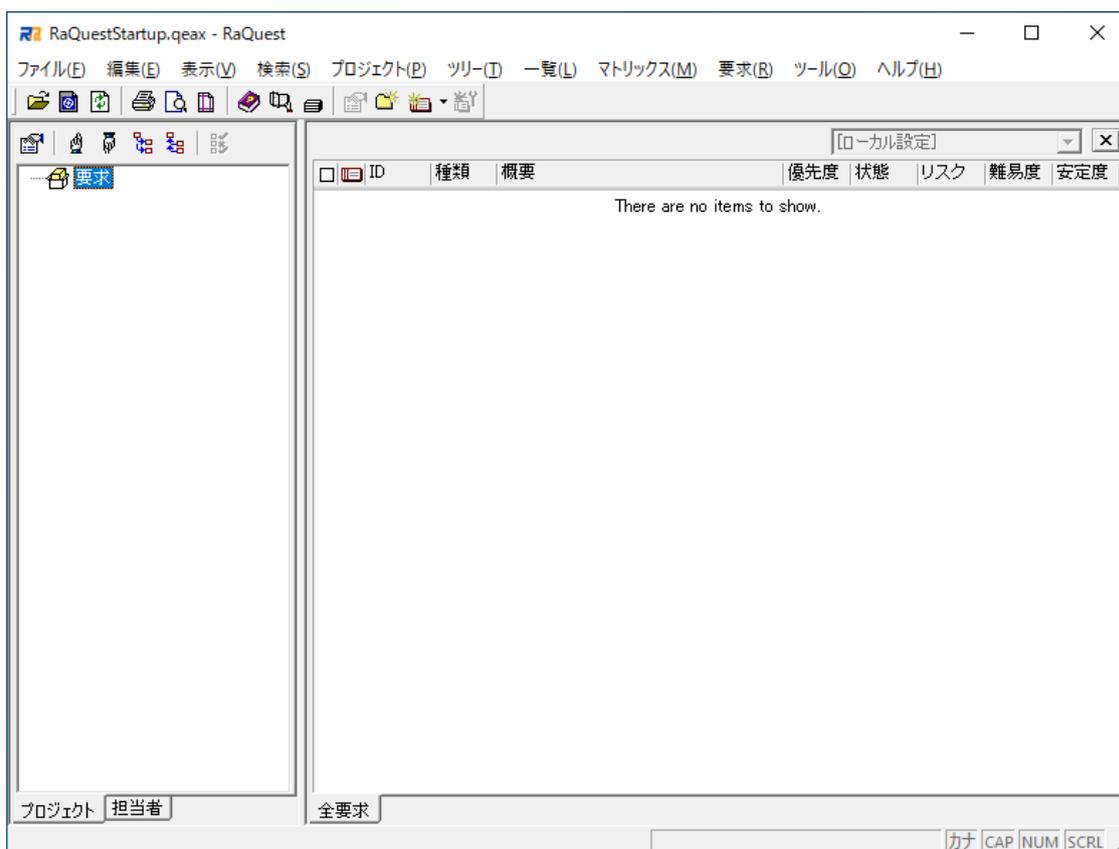


図 4

参考 : RaQuest のプロジェクトは、UML モデリングツール Enterprise Architect のプロジェクトである QEAX/EAPX ファイルです。データベース上のリポジトリやクラウドリポジトリもプロジェクトとして利用できます。(組み合わせる Enterprise Architect で開けることが必要です。)

今回は、Enterprise Architect のプロジェクトを RaQuest のプロジェクトとして使うのではなく、RaQuest で新規にプロジェクトのファイルを作成する手順を説明いたしました。Enterprise Architect のプロジェクトを RaQuest のプロジェクトとして使うための手順はヘルプファイルなどを参照してください。

3. RaQuestの設定と確認

この章では、作業開始前に RaQuest で設定と確認を行う内容について説明します。

3.1. 使用者の名前の確認・設定

まず、使用者の名前の確認を行います。プロジェクトを開いた状態で「ツール」→「ローカルオプション」と選択し、ローカルオプションダイアログを表示します(図 5)。このダイアログの最初の画面に「カレントユーザ名」という項目があります。この名前が、要求項目を作成した場合の「更新者」として引用されるなど、RaQuest で利用されます。

カレントユーザ名が空欄の場合や、変更したい場合は、その下の「既定のユーザ名」という設定項目に使用者の名前を入力してください。なお、既定のユーザ名を設定した場合は、プロジェクトの再読み込みをする必要があります。

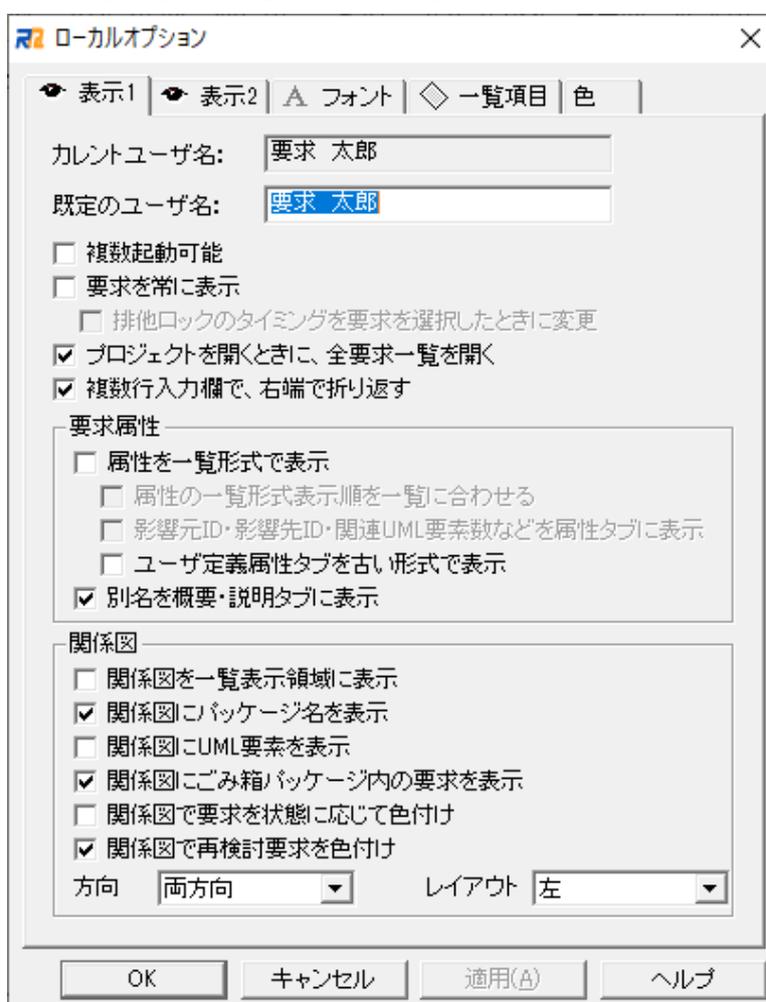


図 5

3.2. 要求の状態遷移

RaQuest では、要求の管理にあたり、以下の図 6 のような要求の状態遷移を想定しています。

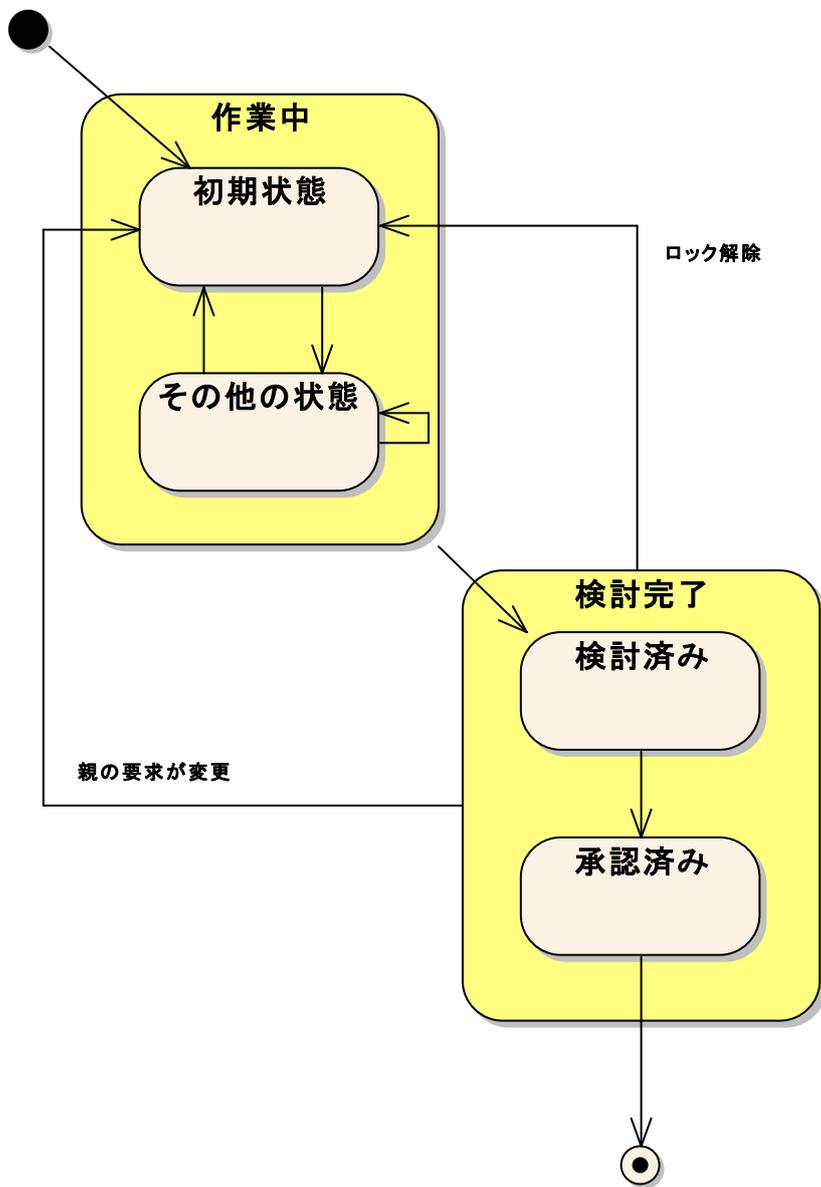


図 6

この中で、RaQuest が「特別な状態」として想定しているものに、次の 3 つがあります。

- 初期状態
要求が作成された直後の状態。検討が必要な状態。
- 検討済み状態
要求の検討が完了し、内容が確定した状態。
- 承認済み状態
確定したものが責任者によって承認され、最終的に確定した状態。

これらの特別な状態に対応する具体的な状態については、プロジェクトオプションで変更可能です。また、要求の状態の選択肢もプロジェクトオプションで追加・変更可能です。標準で設定されている状態の選択肢をこれに当てはめると、次のような流れになります。

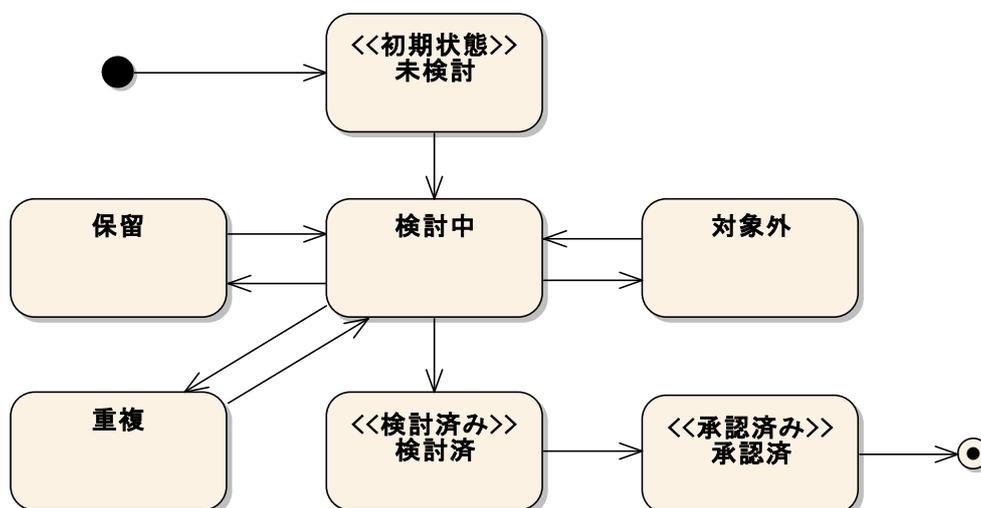


図 7

標準の設定では要求の状態として、「初期状態(未検討)」→「検討中」→「検討済み(検討済)」→「承認済み(承認済)」という流れを考え、検討中に検討の対象外になった場合に「対象外」、検討を保留している場合に「保留」という状態があることを想定したものが設定されています。

「検討済み」「承認済み」に該当する状態は、要求の内容が確定している状態となるため、要求には自動的にロックがかかり内容を変更することはできません。(何らかの理由で内容を変更するために)このロックを外すと、状態は自動的に「初期状態」に戻ります。また、その要求に依存する要求は、再検討が必要な状態に連鎖的に変更します。

こうして、再度要求を見直すことで、要求を変更することによる検討漏れを防ぐことができます。

3.3. 要求の状態の選択肢の確認

「3.2 要求の状態遷移」で説明した、要求の状態の選択肢について確認します。RaQuestのメインメニューから「ツール」→「プロジェクトオプション」の「要求の状態」タブを表示します（図 8）。

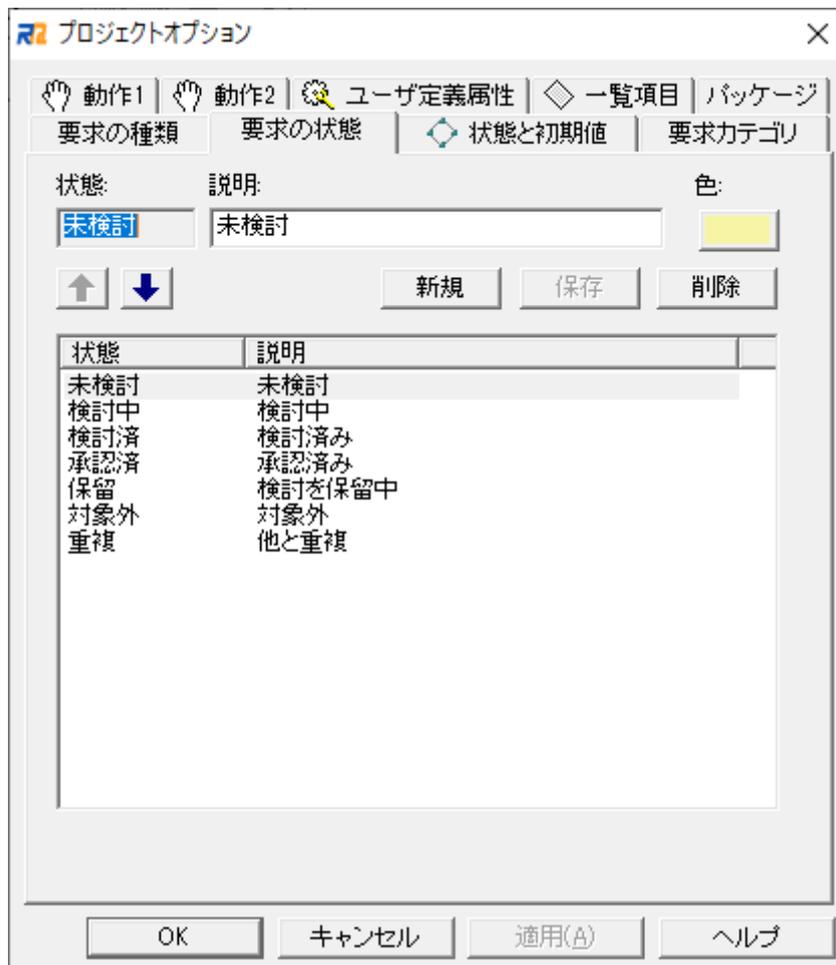


図 8

このダイアログでは、要求の状態を確認します。この「状態」については、前節で説明した、標準の状態になっているはずですが、必要に応じて変更してください。

3.4. 特別な状態の設定の確認

「3.2 要求の状態遷移」で説明した特別な状態の設定を確認します。プロジェクトオプションの「状態と初期値」タブを表示します(図 9)。

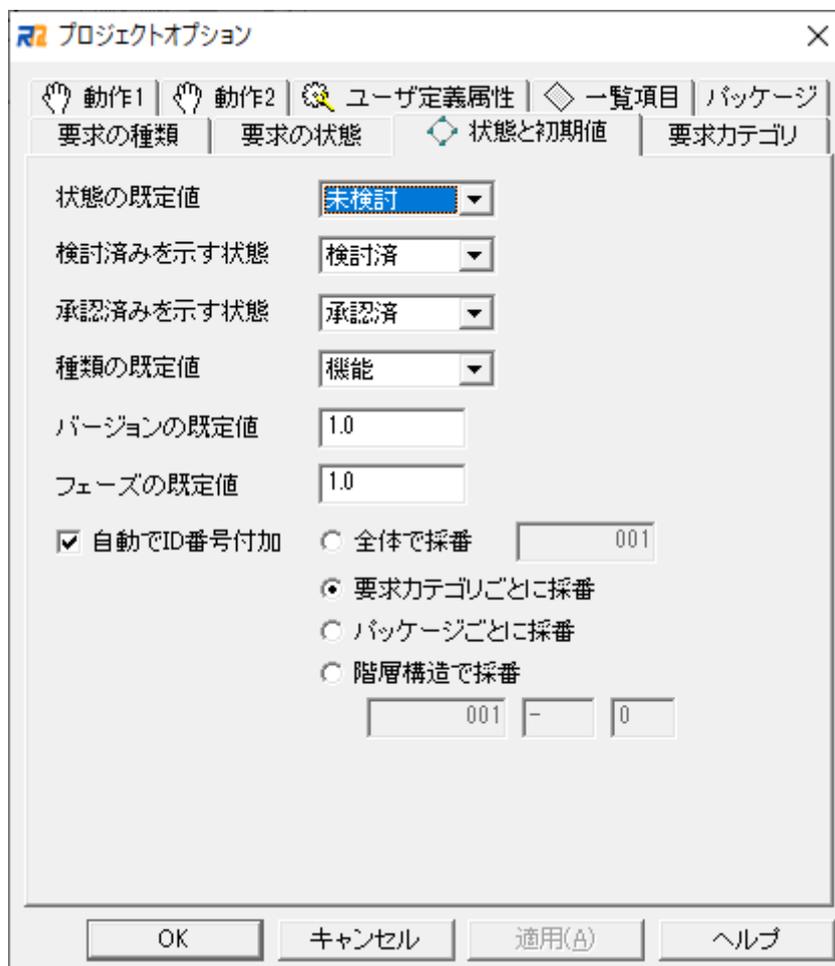


図 9

このダイアログでは、「3.2 要求の状態遷移」で説明した状態の流れに当てはまるように状態が設定されているはずですが、変更する場合は、このダイアログで変更してください。

なお、この設定を要求の作成後に変更すると、作成した要求の状態に矛盾がおきてしまう場合があります。ですので、要求の作成作業開始前に検討・決定し、作業開始後は可能な限り変更しないことを推奨します。

また、新規作成した要求の種類の既定値を確認しておいてください。要求の種類については「3.5 要求の種類の選択肢の確認」で説明します。

3.5. 要求の種類を選択肢の確認

次に、要求の種類を選択肢を確認します。プロジェクトオプションの「要求の種類」タブを表示します(図 10)。

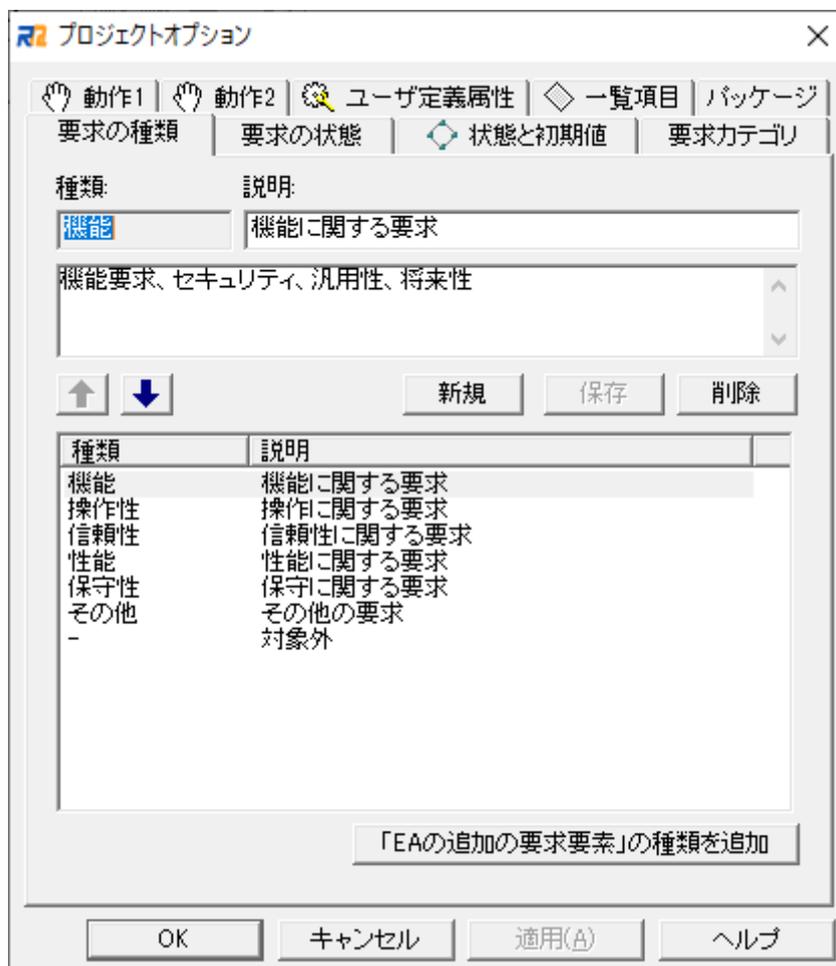


図 10

このダイアログでは、RaQuest で利用する要求の種類を確認します。要求には大きく分けると、「機能」「非機能」要求があるかと思います。このあたりは、部署やチームごとにルールがあると思いますので、それに合わせて要求の種類を指定します。例えば、非機能要求について「制約」「性能」などのより細かい分類をする場合もあるでしょう。

標準では、FURPS+の分類モデルでの種類が定義されています。

3.6. 要求カテゴリの設定

次に、要求カテゴリを設定します。プロジェクトオプションの「要求カテゴリ」タブを表示します(図 11)。

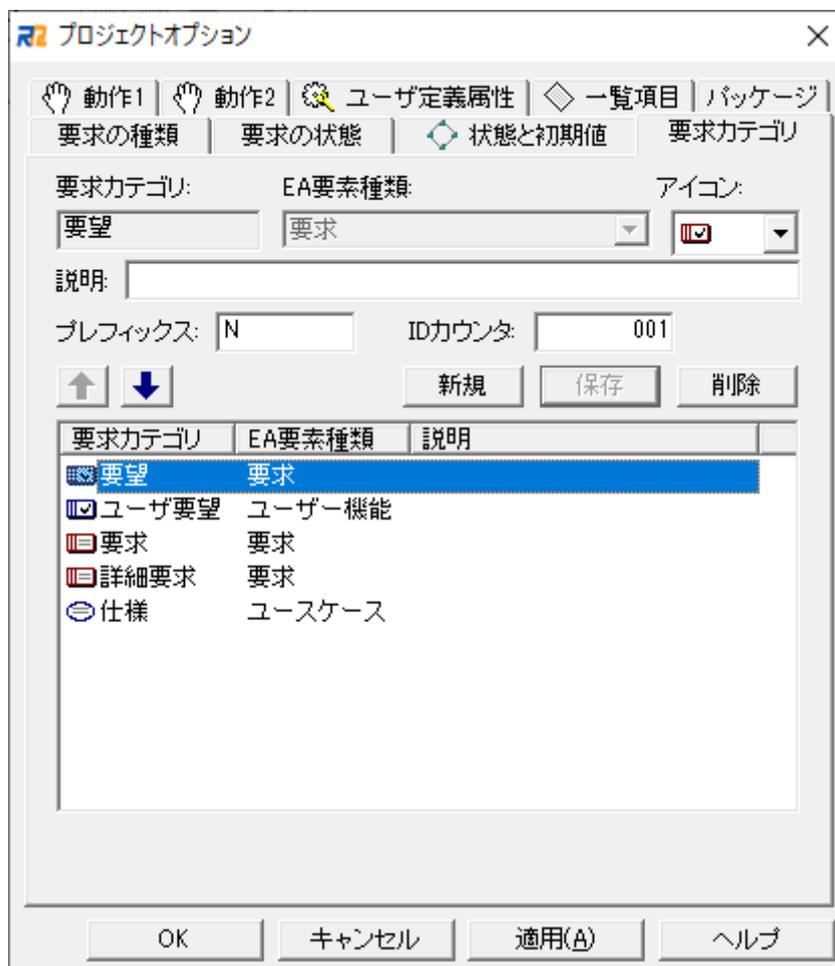


図 11

要求カテゴリは、要求の種類での分類ではなく、要求の抽象度・粒度での分類で、要望・要件・仕様やニーズ・システム要件・ソフトウェア要求などという言葉で分類されているものです。

今回は、デフォルトで設定されている要求に加え、上記のように設定しました。

3.7. 組織と担当者の設定

次に、組織と担当者を設定します。画面左側の領域の「担当者」タブをクリックします(図 12)。ここが、組織図と担当者を設定・利用するためのツリーになります。

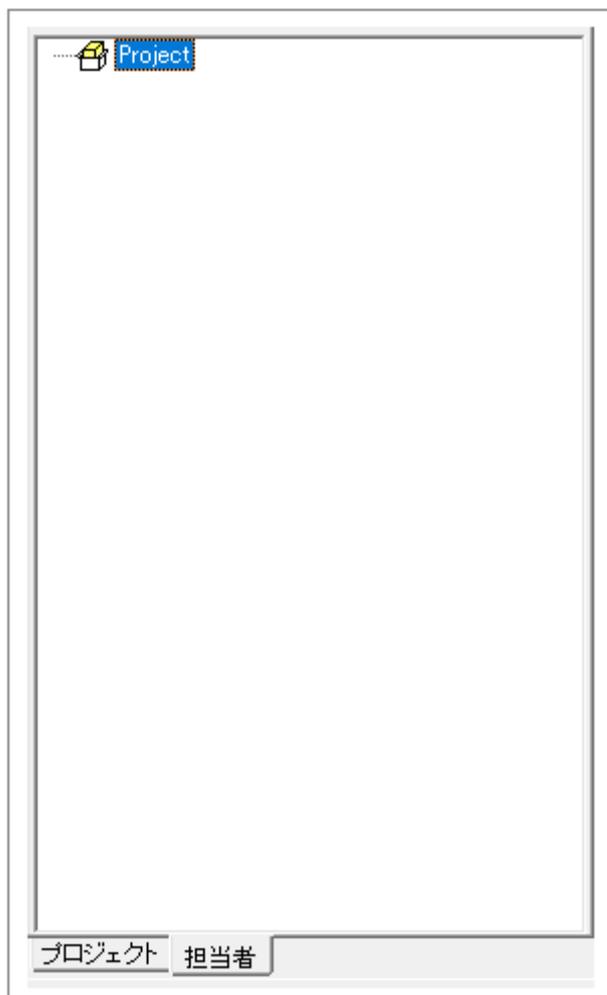


図 12

部署や担当者を作成するには、作成する位置で右クリックしてメニューを表示し、希望する項目を追加します(図 13)。担当者は部署に所属させることができます。



図 13

今回は、以下のように作成しました(図 14)。この時「3.1 使用者の名前の確認・設定」で説明した「使用者の名前」が、組織・担当者のツリーに含まれるようにすると便利です。

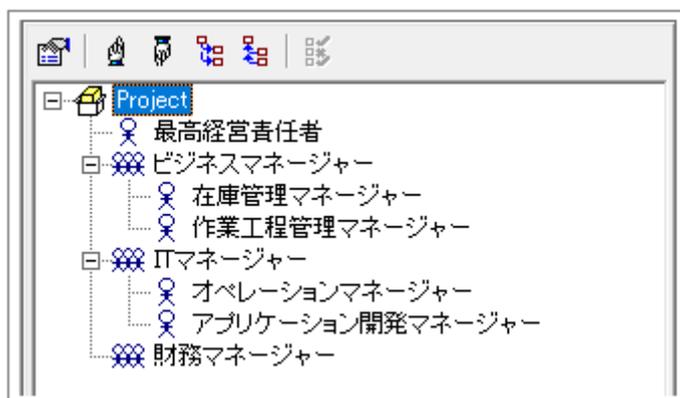


図 14

3.8. ユーザ定義属性の設定

次に、ユーザ定義属性を設定します。RaQuest では、既存の属性にはない属性をユーザが定義することができます。必要な属性を最初に作成しておくことを推奨します。

プロジェクトオプションの「ユーザ定義属性」タブでユーザ定義属性の設定を行います(図 15)。

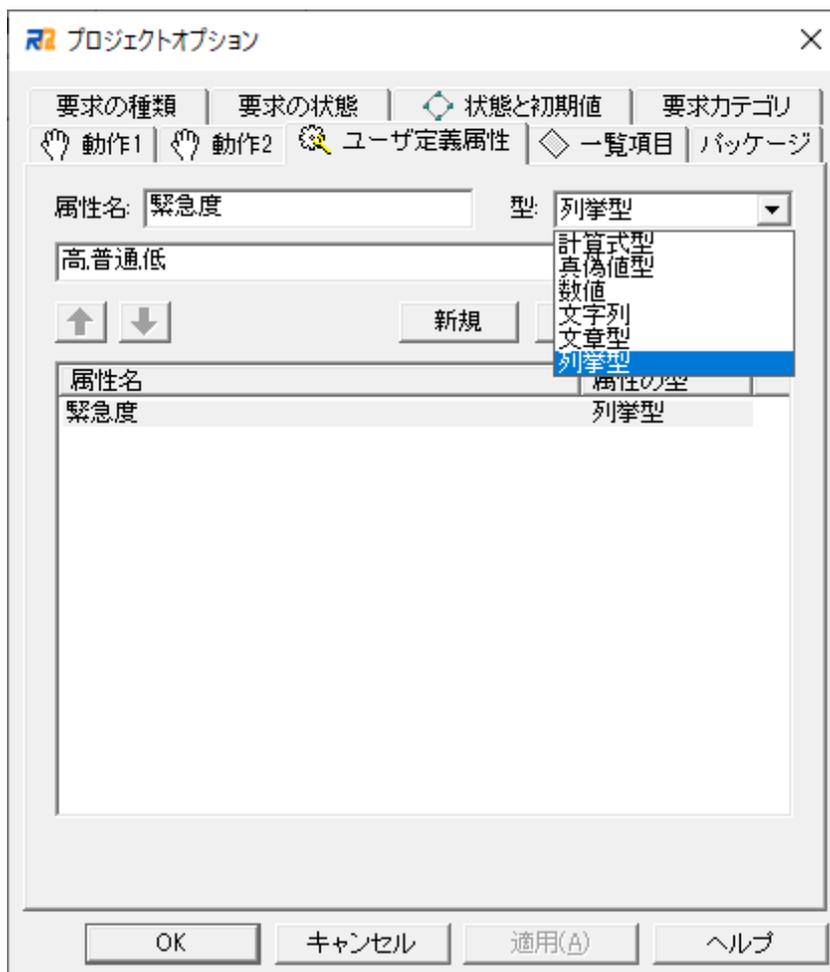


図 15

属性名・型を設定し、保存ボタンをクリックすると新しく属性が作成されます。ユーザはプロパティダイアログのユーザ定義属性タブから利用できます(図 16)。

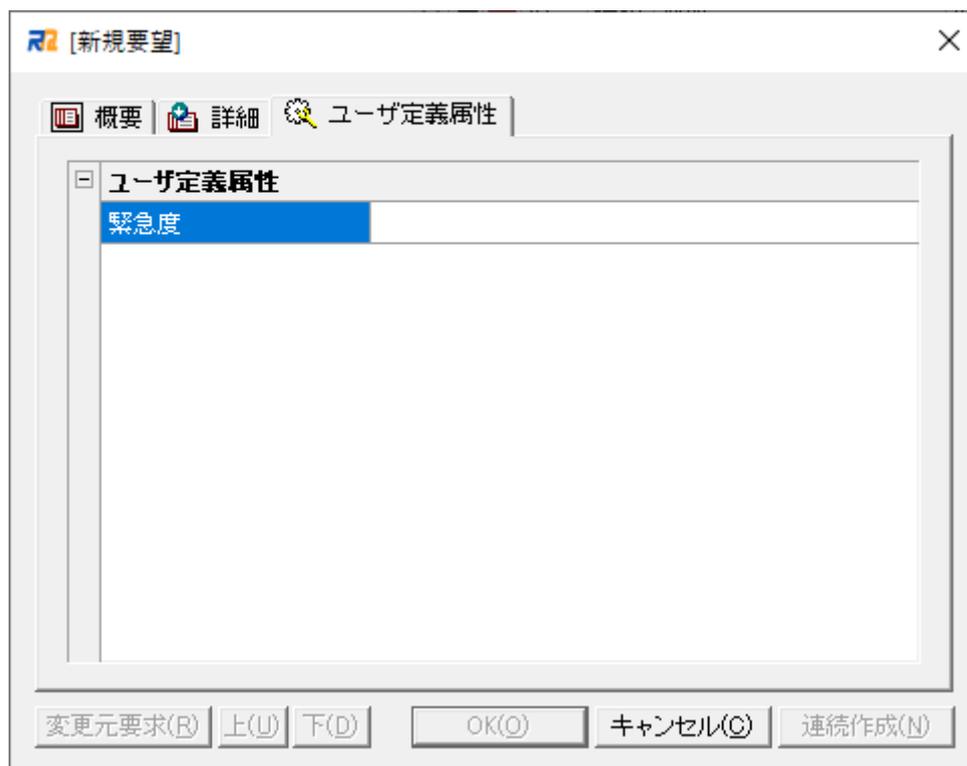


図 16

以上でプロジェクトの設定と確認は完了です。

4. 要求の作成と管理

この章以降は、実際に要求項目を作成・管理する作業の説明です。

4.1. システムの目的・範囲・概要の入力

要求項目などを入力する前に、まずは、このプロジェクトで管理する要求項目の基となる「名前」や「システムの目的」・「システムの範囲」・「概要」などをルートパッケージのプロパティとして入力しましょう。これらの情報を入力するには、プロジェクトツリーのルートパッケージ(一番上のパッケージ)を右クリックして、「プロパティ」を選択します(図 17)。

(プロジェクトツリーが表示されていない場合は、画面左側の領域の「プロジェクト」タブをクリックする、もしくは、「ツリー」→「プロジェクトツリー」を選択して表示してください。)



図 17

ルートパッケージのプロパティ画面が表示されますので、必要な情報を入力してください。今回は、図 18 のように入力しました。

ルートパッケージのプロパティ

名前

ID IDカウンタ

表示一覧項目名

システムの目的
書籍をオンライン販売するためのシステム

システムの範囲
オンラインで書籍の注文を受け、発送の一覧を出す所まですべてカバーする。

概要
ユーザ管理・在庫管理・受注・注文の履行を行う。

OK キャンセル

図 18

4.2. パッケージと要求の作成

RaQuest で作成できる項目には、次の 3 つがあります。

- パッケージ
複数の要求をまとめて管理するための入れ物です。
- 要求
個々の要求項目です。
- 変更要求
既存の要求に対して、変更する必要がある場合に利用します。例えば、ある製品のバージョン 1.0 の要求がバージョン 1.1 で変更になるとします。既存の要求項目を編集する方法もありますが、この方法では過去の要求内容が見えづらくなってしまいます。そのため、既存の要求に対して「変更要求」を定義することで、変更であることを明確にすることができます。

要求項目を作成する前に、まずはパッケージを作成しましょう。パッケージを作成するには、パッケージを作りたいパッケージ（今回はルートパッケージ）を右クリックして、「新規パッケージ」を選択します(図 19)。プロパティ画面が表示されますので、名前や概要などを入力してください。今回は、図 20 のように入力しました。

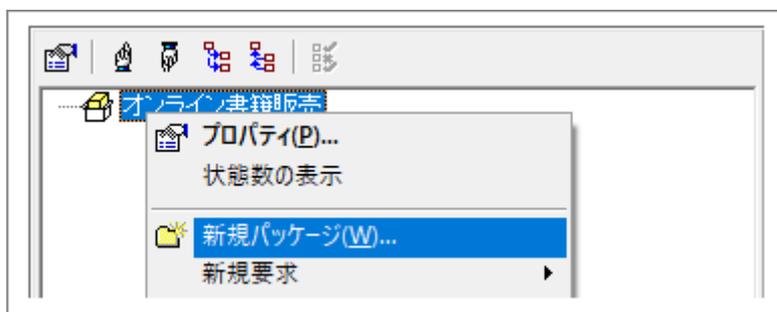


図 19

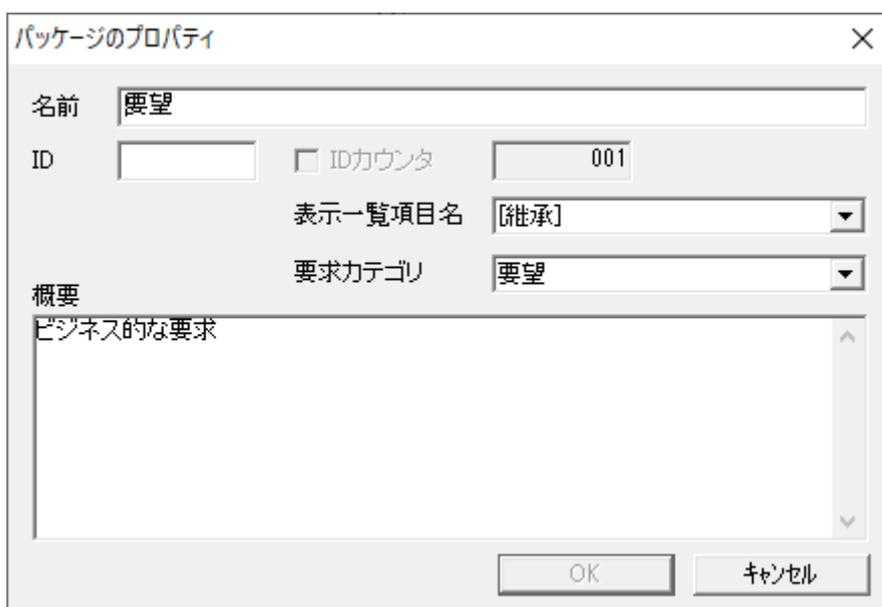


図 20

続いてパッケージを作り、今回は、次の図 21 のようにしました。



図 21

次に、要求項目を作成します。作成するパッケージを右クリックして「新規要望」を選択します(図 22)。

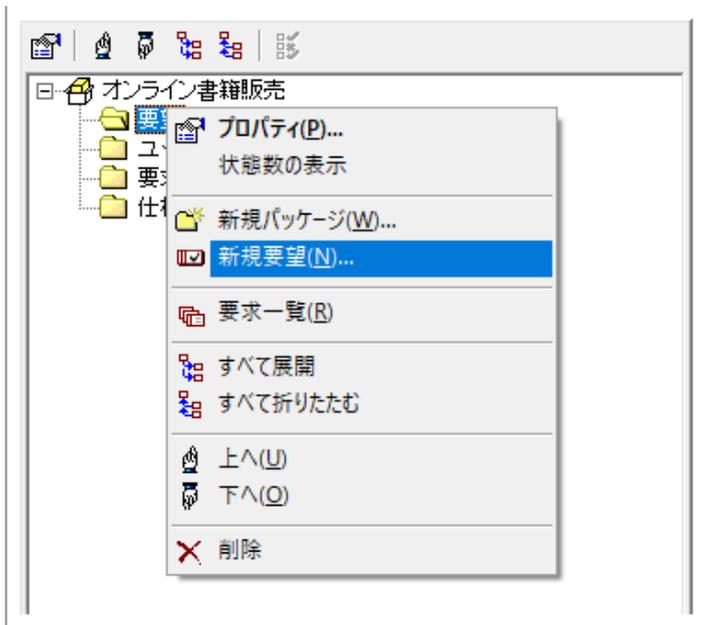


図 22

プロパティダイアログが表示されますので、必要な情報を入力します。ここでは、図 23 のように入力しました。



図 23

同様に、要求項目を入力してください。ここでは、次の図 24 のように、要求項目を作成しました。



図 24

作成した要求には、担当者を割り当てたり、関連するファイルや URL・UML の要素の情報を付加したり、コメントを付けたりすることもできます。これらの機能の詳細はヘルプファイルをご覧ください。

要求の配下にパッケージを配置することも可能です。要求の配下に配置されたパッケージは、通常の階層構造化するパッケージとは異なり、子要求を分類するために配置されるパッケージとなっています。ですので、移動等はできません。ご注意ください。

4.3. 要求の一覧

以上のようにして作成した要求は、画面右側に一覧形式で表示することができます。左側のツリーでルートパッケージを選択した後(あるいは、一覧を表示する対象のパッケージを選択した後)、メインメニューから「一覧」→「要求一覧」を選択してください(図 25)。作成した要求が一覧形式で表示されます(図 26)。



図 25

<input type="checkbox"/> ID	種類	概要	優先度	状態	リスク	難易度	安定度
<input checked="" type="checkbox"/> N001	機能	大量の販売 - 顧客アクセスをより迅速に	普通	承認済	普通	普通	普通
<input type="checkbox"/> N002	機能	非効率と余分なコストを招かないよう各注文ブ...	高	未検討	普通	普通	高
<input type="checkbox"/> N003	機能	取引に直接関係する顧客のメッセージの閲覧	高	未検討	普通	普通	高
<input type="checkbox"/> N004	機能	顧客へメッセージを送るための無駄な時間を削...	高	未検討	普通	普通	高
<input type="checkbox"/> F001	機能	メールによる問い合わせと注文の関係	普通	未検討	普通	普通	普通
<input type="checkbox"/> F002	機能	信頼できるオンライン発注システムを作成する	普通	検討済	普通	普通	普通
<input type="checkbox"/> F003	機能	大量注文をさばける処理能力	普通	検討済	普通	普通	普通
<input type="checkbox"/> F004	機能	効率のよい在庫管理	普通	検討済	普通	普通	普通
<input type="checkbox"/> R001	機能	ユーザーアカウントを管理	普通	検討中	普通	普通	普通
<input type="checkbox"/> SR001	機能	ユーザーを追加	高	検討済	普通	普通	普通
<input type="checkbox"/> SR002	機能	ユーザーを削除	低	未検討	普通	普通	普通
<input type="checkbox"/> SR003	機能	ユーザーアカウントについてのレポート	高	未検討	普通	普通	普通
<input type="checkbox"/> SR004	機能	安全なアクセス	高	未検討	普通	高	高
<input type="checkbox"/> SR005	機能	ユーザー詳細を保存	普通	未検討	普通	普通	普通
<input type="checkbox"/> SR006	機能	ユーザーを認証	普通	未検討	普通	普通	普通
<input type="checkbox"/> R002	機能	オンライン販売の提供	普通	検討中	普通	普通	普通
<input type="checkbox"/> SR007	機能	買い物かご	低	未検討	普通	普通	普通
<input type="checkbox"/> SR008	機能	クレジットカード支払処理	高	未検討	普通	普通	普通
<input type="checkbox"/> R003	機能	在庫管理	普通	検討中	普通	普通	普通
<input type="checkbox"/> SR009	機能	書籍の入荷	普通	未検討	普通	普通	普通
<input type="checkbox"/> SR010	機能	在庫レベルのリスト化	普通	未検討	普通	普通	普通

オンライン書籍..の要求

図 26

この一覧各列のヘッダー部分をクリックすると、クリックした項目で一覧をソートすることができます。

また、フィルタ機能を利用することで、一覧に表示される内容を限定することができます。具体的には、メインメニューから「検索」→「一覧フィルタ」と指定して、単語を入力すると、その単語を含む(あるいは含まない)項目のみを表示することができます(図 27, 図 28)。

一覧フィルタ

ID
 概要 **ユーザー**
 詳細
 カテゴリ
 種類
 状態
 更新者
 登録者
 キーワード
 バージョン
 フェーズ
 優先度
 難易度
 ユーザ定義 **緊急度**
 ロック **Locked**
 日付
 登録日 更新日 期限
 より前 **2020/07/30**
 より後 **2020/07/30**

リスク
 安定度
 作業量
 要再検討 **True**
 チェック **Checked**

含まない 完全一致
 論理演算子
 and or

オプション
 大文字小文字を区別しない
 単語単位で探す
 サブフォルダーも探す

図 27

ID	種類	概要	優先度	状態	リスク	難易度	安定度
R001	機能	ユーザーアカウントを管理	普通	検討中	普通	普通	普通
SR001	機能	ユーザーを追加	高	検討済	普通	普通	普通
SR002	機能	ユーザーを削除	低	未検討	普通	普通	普通
SR003	機能	ユーザーアカウントについてのレポート	高	未検討	普通	普通	普通
SR005	機能	ユーザー詳細を保存	普通	未検討	普通	普通	普通
SR006	機能	ユーザーを認証	普通	未検討	普通	普通	普通

図 28

このようにして、多くの要求項目を簡単に確認することができます。さらに、「検討済み」

「承認済み」の状態にある要求や、期限切れの要求は表示色が変わりますので、効率的に要求を管理することができます(図 29)。

<input type="checkbox"/>  ID	種類	概要	優先度	状態	リスク	難易度	安定度
<input checked="" type="checkbox"/>  N001	機能	大量の販売 - 顧客アクセスをより迅速に	普通	承認済	普通	普通	普通
<input type="checkbox"/>  N002	機能	非効率と余分なコストを招かないよう各注文ブ...	高	未検討	普通	普通	高
<input type="checkbox"/>  N003	機能	取引に直接関係する顧客のメッセージの閲覧	高	未検討	普通	普通	高
<input type="checkbox"/>  N004	機能	顧客へメッセージを送るための無駄な時間を削...	高	未検討	普通	普通	高
<input type="checkbox"/>  F001	機能	メールによる問い合わせと注文の関係	普通	未検討	普通	普通	普通
<input type="checkbox"/>  F002	機能	信頼できるオンライン発注システムを作成する	普通	検討済	普通	普通	普通
<input type="checkbox"/>  F003	機能	大量注文をさばける処理能力	普通	検討済	普通	普通	普通
<input type="checkbox"/>  F004	機能	効率のよい在庫管理	普通	検討済	普通	普通	普通
<input type="checkbox"/>  R001	機能	ユーザーアカウントを管理	普通	検討中	普通	普通	普通
<input type="checkbox"/>  SR001	機能	ユーザーを追加	高	検討済	普通	普通	普通
<input type="checkbox"/>  SR002	機能	ユーザーを削除	低	未検討	普通	普通	普通
<input type="checkbox"/>  SR003	機能	ユーザーアカウントについてのレポート	高	未検討	普通	普通	普通
<input type="checkbox"/>  SR004	機能	安全なアクセス	高	未検討	普通	高	高
<input type="checkbox"/>  SR005	機能	ユーザー詳細を保存	普通	未検討	普通	普通	普通
<input type="checkbox"/>  SR006	機能	ユーザーを認証	普通	未検討	普通	普通	普通
<input type="checkbox"/>  R002	機能	オンライン販売の提供	普通	検討中	普通	普通	普通
<input type="checkbox"/>  SR007	機能	買い物かご	低	未検討	普通	普通	普通
<input type="checkbox"/>  SR008	機能	クレジットカード支払処理	高	未検討	普通	普通	普通
<input type="checkbox"/>  R003	機能	在庫管理	普通	検討中	普通	普通	普通
<input type="checkbox"/>  SR009	機能	書籍の入荷	普通	未検討	普通	普通	普通
<input type="checkbox"/>  SR010	機能	在庫レベルのリスト化	普通	未検討	普通	普通	普通

オンライン書籍..の要求

図 29

5. 既存要求情報の取り込み

この章では、表計算ツールなど他のツールで管理している既存の要求情報を取り込むための方法である、以下の2つの機能について説明します。

- CSV インポート機能
- Word アドイン

5.1. CSVインポート

表計算ツールなど他のツールの要求情報を取り込むためには、CSV ファイルにデータを変換する必要があります。それぞれのツールで CSV ファイルにデータ出力を行い、以下の方法で RaQuest にインポートします。

まず、ツリーでインポートされる要求を格納するパッケージを選択後、RaQuest のメインメニューから、「ファイル」→「インポート」→「CSV」を選択します(図 30)。

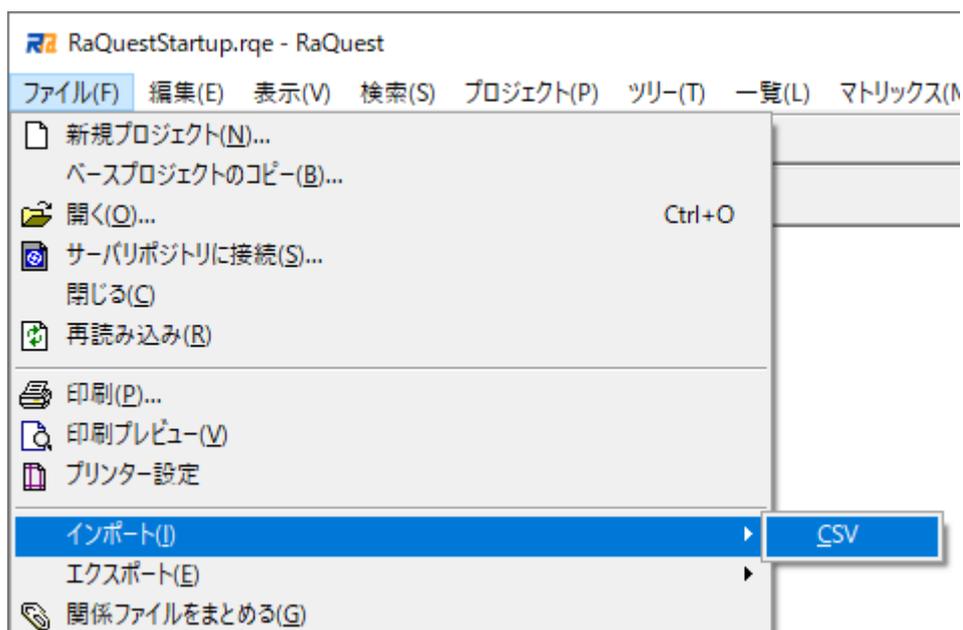


図 30

表示された「一覧の読み込みと出力」ダイアログ(図 31)の、「編集/新規」ボタンを押します。



図 31

表示された「一覧の入出力形式の設定」ダイアログで、「項目の追加」や「上」「下」ボタンを使い、読み込む CSV ファイルのファイル形式を定義します。ここでは、CSV ファイルが以下の形になっている時の設定をしました(図 32)。

(ID),(概要),(状態)

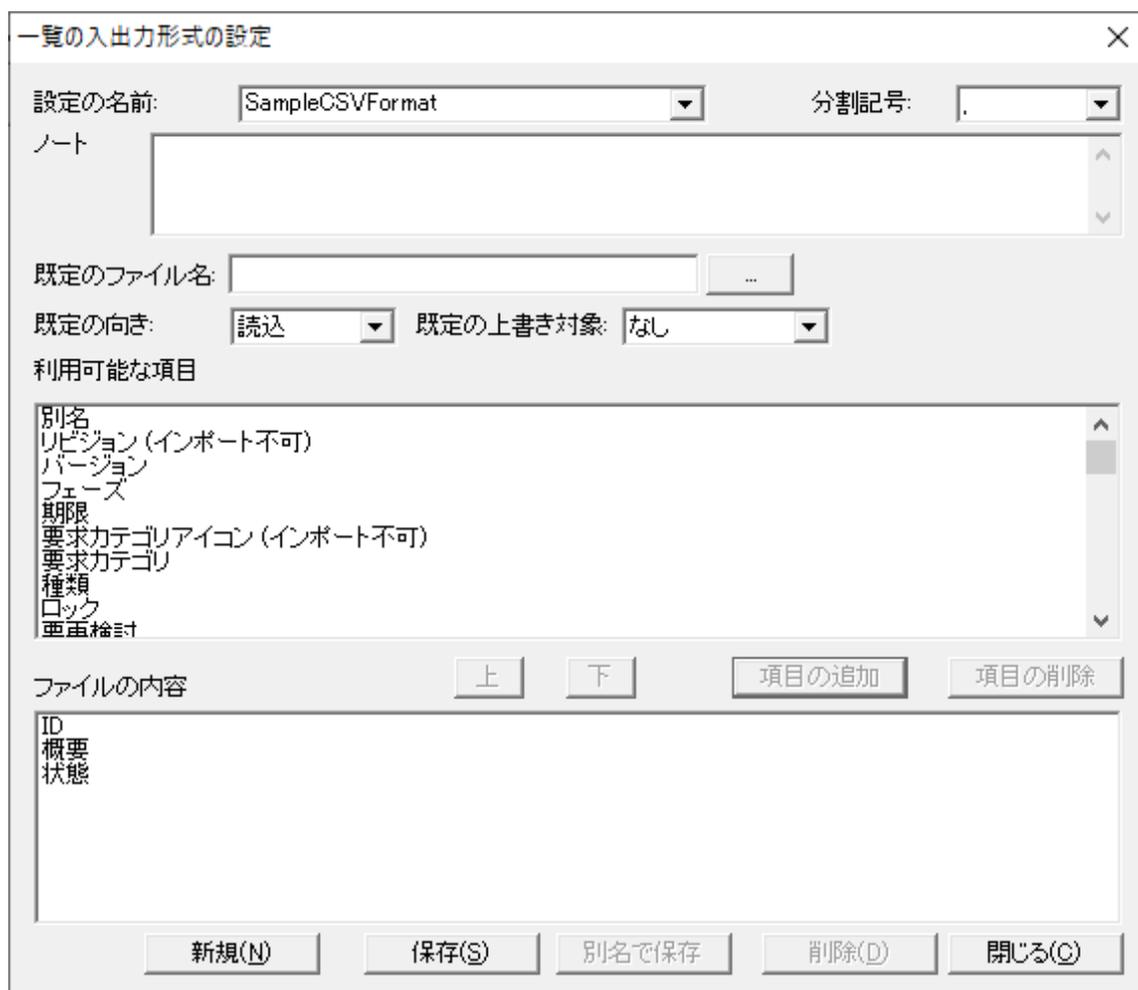


図 32

設定に名前(ここでは、SampleCSVFormat)を付けて、保存します。

「一覧の読み込みと出力」ダイアログで、設定のコンボボックスで、作成した設定を指定し、CSV ファイルを指定し、実行ボタンを押すことで、CSV ファイルのデータが、指定パッケージの下に要求として読み込まれます。

既にプロジェクトにある要求の ID または GUID が、CSV ファイルにある場合には、「一覧の読み込みと出力」ダイアログの「上書き対象」の設定を変更することで、上書きが可能です。9.2 章で説明する CSV/Excel エクスポート時の内容に ID または GUID を含めておくことで、表計算ツールなどで CSV ファイルの内容を編集した場合でも、プロジェクトにある要求の内容を上書きすることで、同期ができます。

5.2. Wordアドイン

インストール時に Word アドインを登録している場合、Microsoft Word で文字を反転させ、右クリックして表示されるメニューに"RaQuest へ登録" というメニューが追加されています。Microsoft Word と RaQuest を同時に起動している場合、このメニューを選択することによって、RaQuest で開いているプロジェクトに選択した文字が要求として登録できます。

詳細につきましては、ヘルプファイルをご覧ください。

6. 要求への担当者の割り当てと関連付け

6.1. 担当者の割り当て

作成した要求には、その要求に関連する担当者を割り当てることができます。担当者とは、具体的にはその要求項目を検討する人であるかもしれませんが、その要求の管理に責任を持つ(最終的に「承認済み」になるまで進捗を管理する)人かもしれません。

要求に担当者を割り当てる一番簡単な方法は次の通りです。まず、前節で説明した要求一覧を表示します。そして、左側には担当者ツリーを表示させます。この状態で、要求項目を担当者ツリーのメンバーにドラッグ&ドロップします。(図 33)



図 33

この操作により、ウインドウ下部のステータスバーに図 34 のように表示されれば完了です。

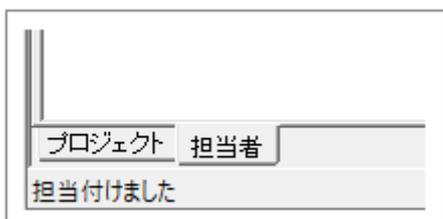


図 34

なお、担当者から要求へドラッグ&ドロップしても同じ結果になりますので、状況に応じて使い分けてください。

この、担当を割り当てた内容については、要求のプロパティダイアログでも確認することができます。プロパティダイアログの「担当者」タブを選択してください(図 35)。

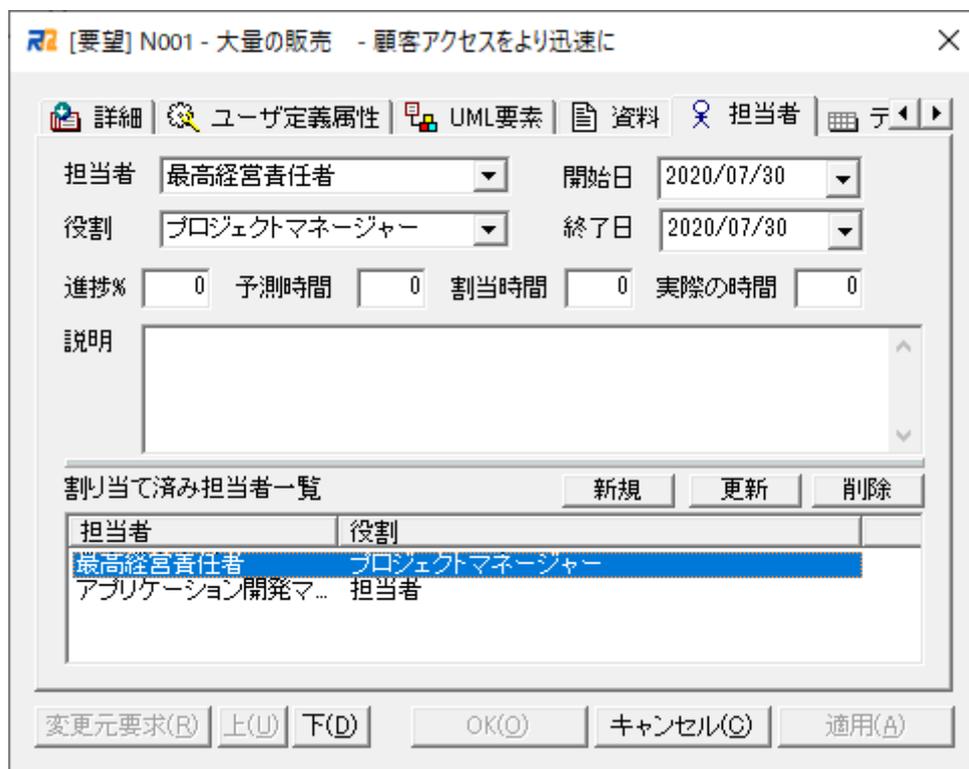


図 35

このダイアログからも、担当者の追加ができます。担当者が変更になった場合や、削除する場合にはこのダイアログを利用します。

ここで選択可能な役割は、メインメニューの「ツール」→「Enterprise Architect を起動」で Enterprise Architect を起動し、Enterprise Architect のプロジェクトリボン | リファレンス情報 | 既定値 | メンバー で表示されるメンバーダイアログの役割タブでカスタマイズ可能です。必要に応じ変更してください。

こうして担当を割り当てた要求は、担当者ごとに一覧で確認することができます。担当者ツリーで表示する担当者を選択した後、メインメニューから「一覧」→「担当要求一覧」を選択することで、その担当者が担当になっている要求のみを一覧で表示することができます(図 36,図 37)。

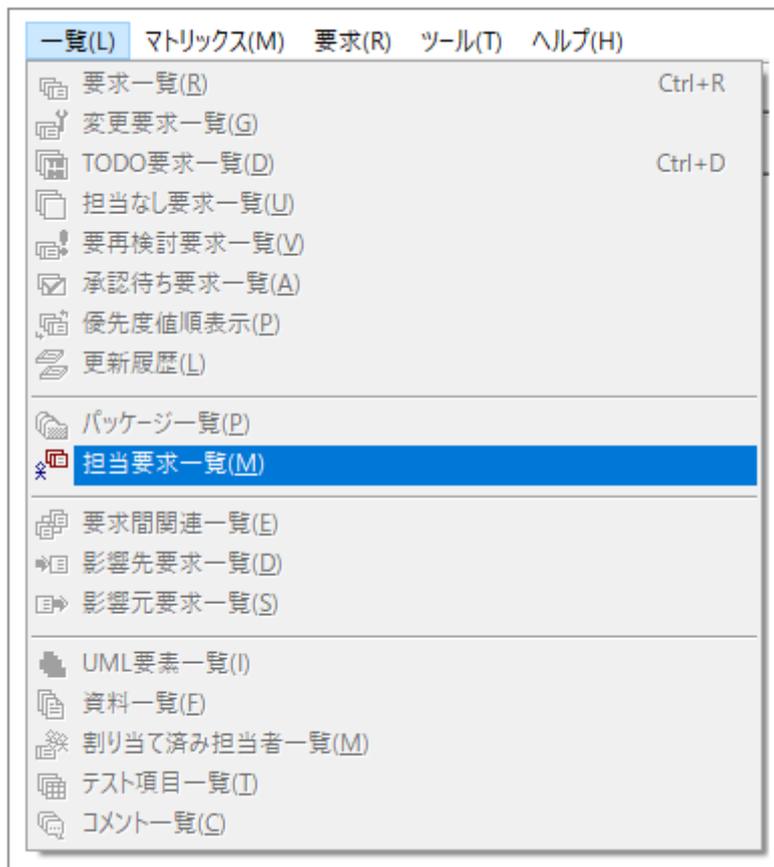


図 36

ID	種類	概要	優先度	状態	リスク	難易度	安定度
N001	機能	大量の販売 - 顧客アクセスをより迅速に	普通	承認済	普通	普通	普通

図 37

6.2. 要求の関係付け

作成した要求間に関係がある場合には、その関係を定義することができます。ここでいう「関係」とは、「要求 A の内容と要求 B の内容が密接に関係していて、要求 A の内容が変更されると要求 B にも影響が発生する可能性がある」場合などです。このような関係は、ルートパッケージの直下のパッケージ(図 21)の異なるパッケージに含まれる要求間で作成されることが多いです。

このような場合には、RaQuest を利用して関係を管理することができます。

関係の作成は、ドラッグ&ドロップで簡単に作成することができます。画面右側の要求一覧の要求をドラッグして、要求一覧の他の要求にドロップします。または、画面左側の「プロジェクト」タブのツリー内の要求をドラッグして、要求一覧の要求にドロップします。このときに、影響を受ける要求(影響先・上記の例では要求 B)をドラッグして、影響を与える要求(影響元・上記の例では要求 A)にドロップします。ドラッグ&ドロップした結果は、ステータスバーに表示されます(図 38)。

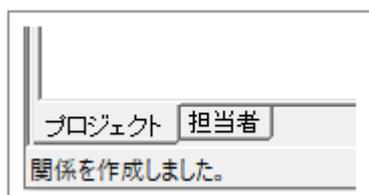


図 38

関係付けた関係を確認するには、3通りの方法があります。図として表示する方法と、一覧で表示する方法、そしてマトリックスとして表示する方法です。

図で表示するには、対象の要求を右クリックして「要求の関係を図示」を選択してください(図 39)。

ID	種類	概要	優先度	状態	リスク
N001	機能	大量の販売 - 顧客	普通	承認済	普通
N002	機能	非効率と余分なコスト		検討	普通
N003	機能	取引に直接関係する		検討	普通
N004	機能	顧客へメッセージを送		検討	普通
F001	機能	メールによる問い合わせ		検討	普通
F002	機能	信頼できるオンライン		付済	普通
F003	機能	大量注文をさばける効		付済	普通
F004	機能	効率のよい在庫管理		付済	普通
R001	機能	ユーザーアカウントを		付中	普通
SR001	機能	ユーザーを追加		付済	普通
SR002	機能	ユーザーを削除		検討	普通
SR003	機能	ユーザーアカウントに		検討	普通
SR004	機能	安全なアクセス		検討	普通
SR005	機能	ユーザー詳細を保存		検討	普通
SR006	機能	ユーザーを認証		検討	普通
R002	機能	オンライン販売の提供		付中	普通
SR007	機能	買い物かご		検討	普通
SR008	機能	クレジットカード支払処理	高	未検討	普通

図 39

すると、次の図 40 のように図として表示されます。選択した要求が赤色になっています。

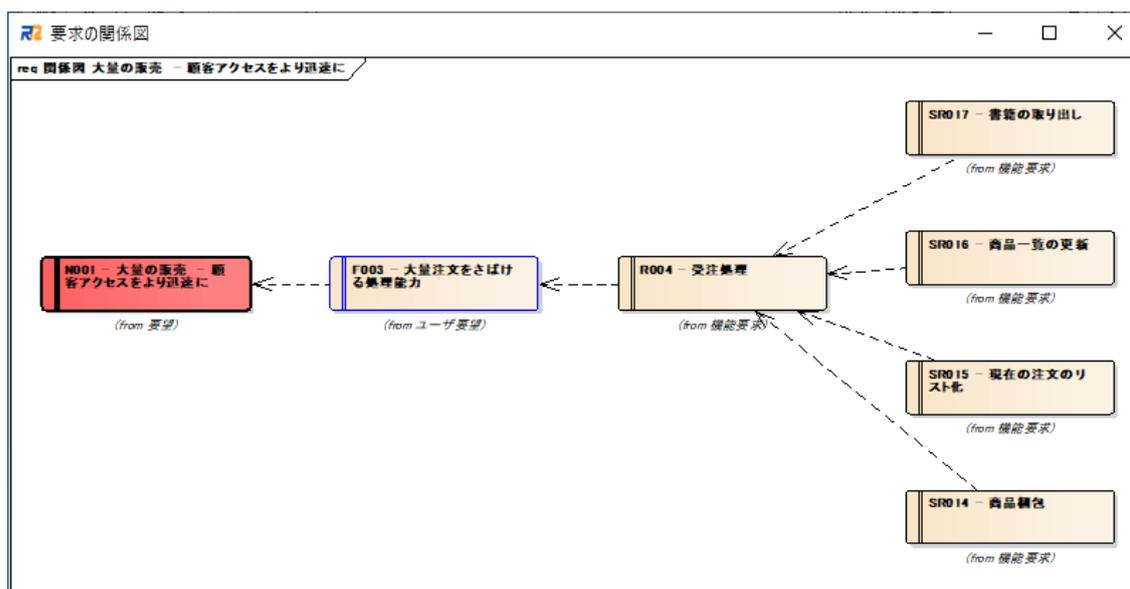


図 40

この図の中の矢印は「依存の方向」を示しています。図 40 の場合、左側の要求が右側の要求に依存していることを示しています。「依存の方向」は「影響を与える方向」とは逆方向になっていることに注意してください。

一覧として表示するには、対象の要求を右クリックして「影響先要求一覧」か「影響元要求一覧」を選択してください。ここで、「影響先要求一覧」は「(選択した要求が変更されることによって) 影響を受ける要求」の一覧であることに注意してください。例えば、先ほどの関係の場合には、要求 A を選択して「影響先要求一覧」を選択すると、要求 B を含む一覧が表示されます。(図 41)

ID	種類	概要	優先度	状態	リスク	難易度	安定度
F003	機能	大量注文をさばける処理能力	普通	検討済	普通	普通	普通
R004	機能	受注処理	普通	検討中	普通	普通	普通
SR014	機能	商品梱包	普通	未検討	普通	普通	普通
SR015	機能	現在の注文のリスト化	普通	未検討	普通	普通	普通
SR016	機能	商品一覧の更新	普通	未検討	普通	普通	普通
SR017	機能	書籍の取り出し	普通	未検討	普通	普通	普通

全要求 大量の販売 - ...の影響先

図 41

一方、「影響元要求一覧」は、選択した要求に影響を与える要求の一覧になります。

この一覧では、要求を右クリックして「関係の削除」を選択することで、関係を削除することができます(図 42)。

ID	種類	概要	優先度	状態	リスク	難易度	安定度
F003	機能	大量注文をさばける処理能力	普通	検討済	普通	普通	普通
R004	機能	受注処理		検討中	普通	普通	普通
SR014	機能	商品梱包		未検討	普通	普通	普通
SR015	機能	現在の注文のリスト化		未検討	普通	普通	普通
SR016	機能	商品一覧の更新		未検討	普通	普通	普通
SR017	機能	書籍の取り出し		未検討	普通	普通	普通

プロパティ(P)...
要求カテゴリ変更(H)...
承認(A)...
ツリー内の位置を表示(I)
新規パッケージ(W)...
新規要求
新規変更要求(G)...
詳細検索(S)...
一覧フィルタ(F)...
影響先要求一覧(D)
影響元要求一覧(S)
要求の関係を図示(M)
関係の削除
削除

図 42

マトリックスとして表示するには、メインメニューの「マトリックス」→「要求間マトリックス」を選択します。最初はすべての要求間の関係が表示されます (図 43)。必要に応じてパッケージ選択で、表示するパッケージの絞り込みを行ってください。

マトリックス上で左ダブルクリックまたは右クリックからのコンテキストメニューで関係の設定・変更が可能です。

要求間の他にも要求と担当者・要求とユースケース・要求と UML 要素のマトリックス表示ができ、「関連無しを色付」などの機能を使うことで「抜け・漏れ」を把握することが可能です。

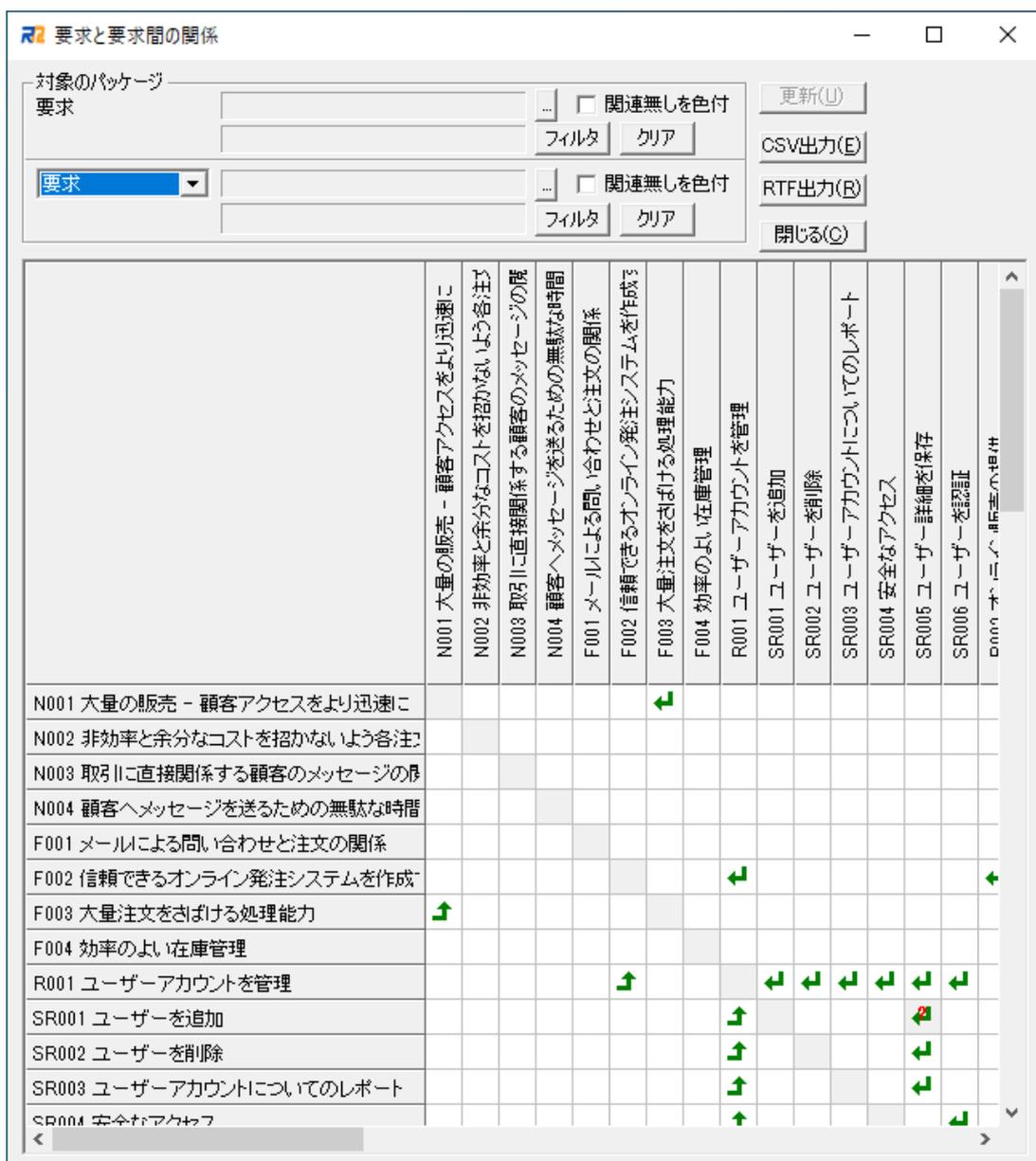


図 43

以上のようにして、要求間の関係を定義し、その関係を図や一覧やマトリックスで確認することができます。この関係定義は、次の章で説明する「7.4 影響範囲の確認」を行う場合にも利用されます。

7. 要求の状態管理

作成した要求の状態を変更し、管理する方法について説明します。

7.1. 要求の状態変更

既に説明したように、要求には状態があり、状態を変更することで要求を管理していきます。状態を変更するには、要求のプロパティダイアログを利用します。

一覧やツリーの要求をダブルクリックするか、右クリックで表示されるコンテキストメニューで「プロパティ」を選択することで、プロパティダイアログが表示されます(図 44)。このプロパティダイアログで、状態を変更することができます。

[要望] N003 - 取引に直接関係する顧客のメッセージの閲覧	
概要	取引に直接関係する顧客のメッセージの閲覧
別名	
ID	N003
バージョン	1.0
リビジョン	4
フェーズ	1.0
<input type="checkbox"/> 期限	2020/07/30
種類	機能
登録日時	2010/09/17 17:26:27
登録者	umesan
最終更新日時	2012/02/16 15:17:38
最終更新者	umesan
状態	未検討
<input type="checkbox"/> ロック	
<input type="checkbox"/> 再検討	
<input type="checkbox"/> 承認済	
承認者	

図 44

状態を変更した後は、OK ボタンを押して保存することで変更が反映されます。

7.2. 「検討済み」への状態変更

通常の状態変更はこれで完了ですが、RaQuest で定義されている特別な状態である「検討済み」「承認済み」の場合には、異なる点があります。

まず、「検討済み」について説明します。要求の検討が完了し、「検討済み」にする場合には 7.1 章の手順と同じです。ただし、OK ボタンを押すと次のような確認が表示されます。

(図 45)

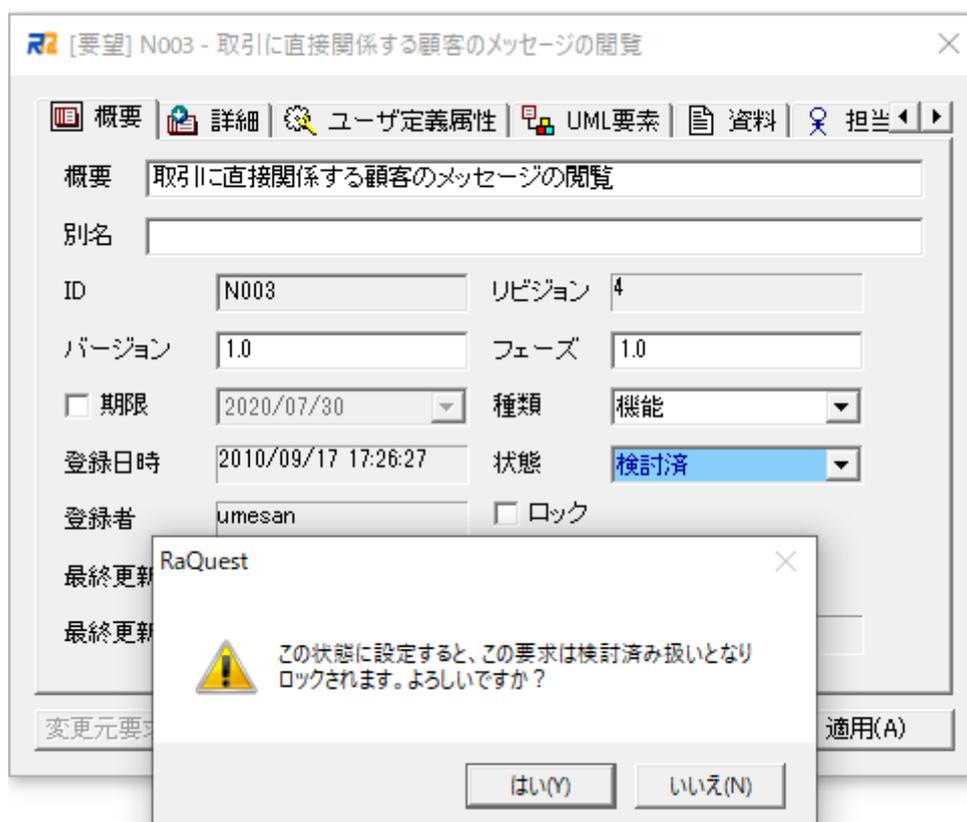


図 45

ここにあるように、「検討済み」にすると、要求はロックされて変更することができなくなります。ロックされた後に再度編集したい場合には、ロックのチェックボックスを外します。このときに、次のような確認が表示されます。(図 46)

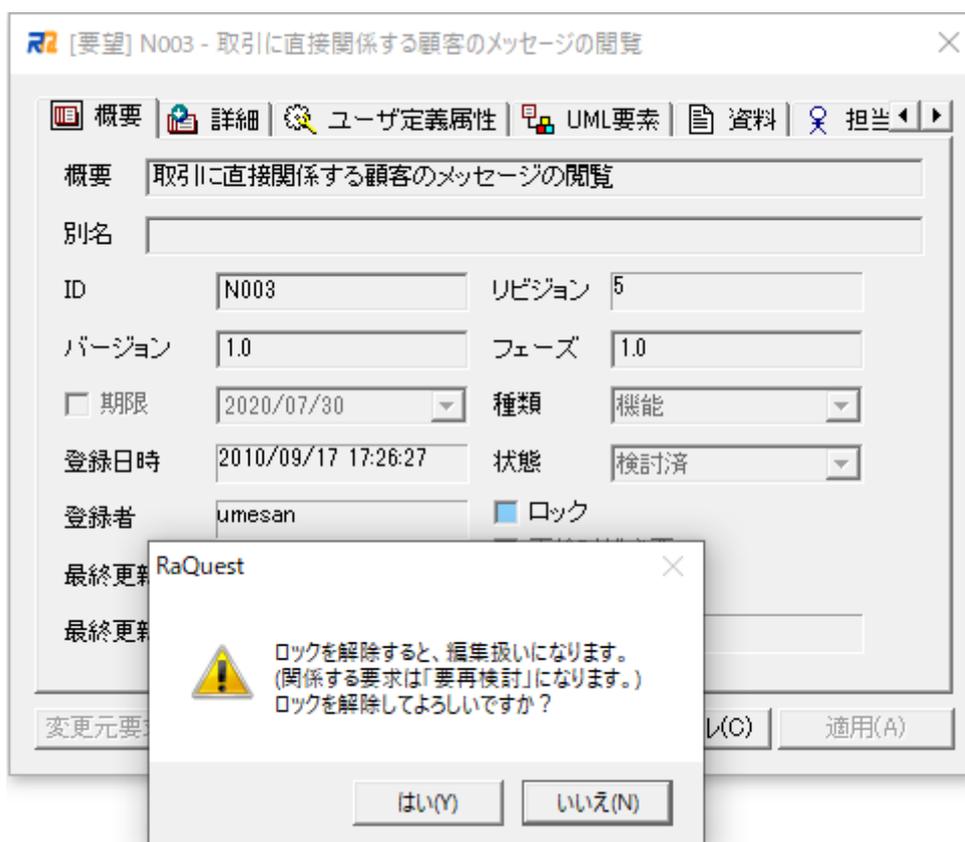


図 46

ここでロックを解除すると、この要求は「初期状態」に戻ります。今回の例では、初期状態は「未検討」なので、状態が「未検討」に戻ります。また、この要求に関する要求もすべて状態が変更されます(この点については後ほど「7.4 影響範囲の確認」で説明します)。

7.3. 「承認済み」への状態変更

要求を状態遷移の最終段階である「承認済み」に変更する場合のみ、上記の方法では行うことができません。「承認済み」に変更する場合には、「承認」機能を利用する必要があります。

承認するためには、対象の要求を選択して、メインメニューから「要求」→「承認」を選択します(図 47)。

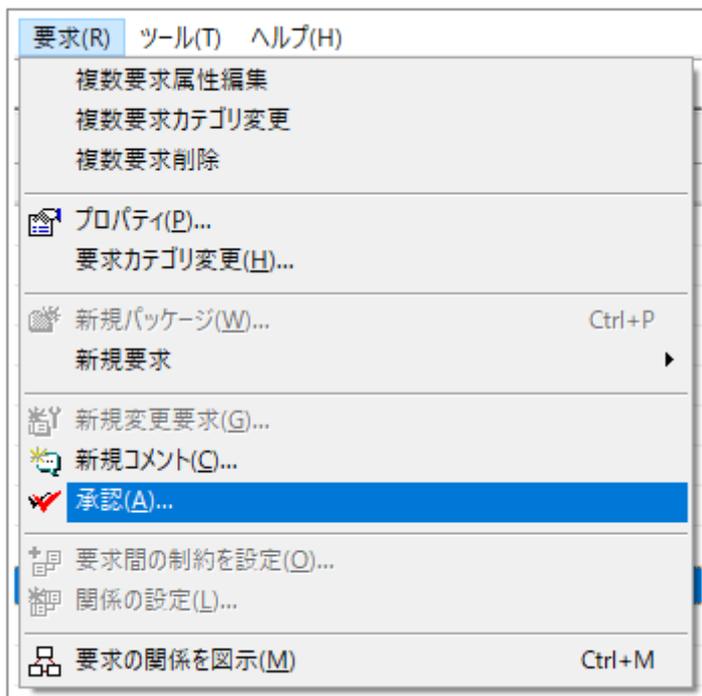
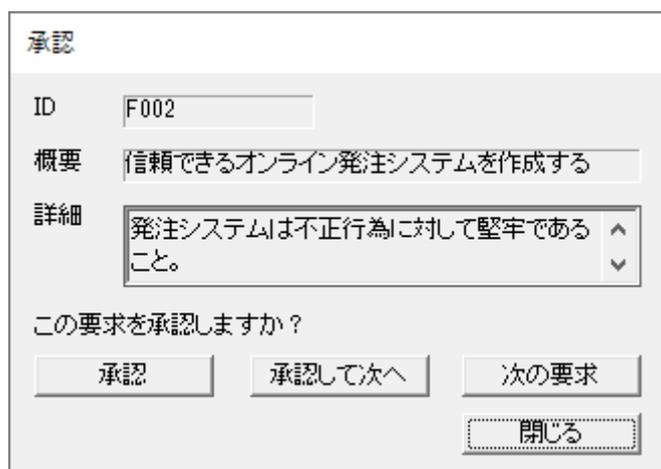


図 47

すると、次のようなダイアログが表示されます(図 48)。このダイアログでは、要求の概要と詳細を見ながら、承認するかどうかを判断することができます。



承認

ID

概要

詳細

この要求を承認しますか？

図 48

承認された要求も、引き続きロックされています。このロックを解除しようとした場合には、「検討済み」の場合と同様の確認のダイアログが表示されます。

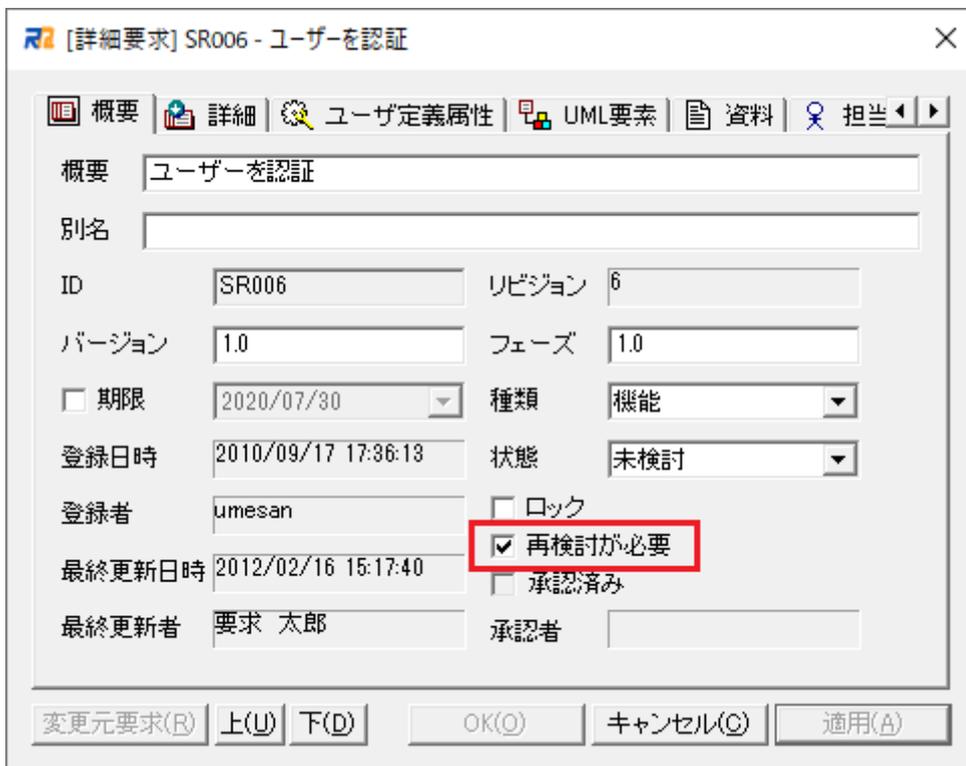
7.4. 影響範囲の確認

先ほど説明した、「検討済み」や「承認済み」の状態からロックを外した場合には、確定した要求内容に変更があったとみなされます。この場合には、関係する要求は

- ・ ロックが解除
- ・ 状態が「検討済み」「承認済み」であった場合「初期状態」に変更
- ・ 「再検討が必要」に変更

となります。

「再検討が必要」な状態は、要求のプロパティダイアログで変更できます。



The screenshot shows a dialog box titled "[詳細要求] SR006 - ユーザーを認証". The dialog has several tabs: 概要 (Overview), 詳細 (Details), ユーザ定義属性 (User-defined attributes), UML要素 (UML elements), 資料 (Materials), and 担当 (Responsible). The "概要" tab is selected. The main area contains the following fields:

概要	ユーザーを認証		
別名			
ID	SR006	リビジョン	6
バージョン	1.0	フェーズ	1.0
<input type="checkbox"/> 期限	2020/07/30	種類	機能
登録日時	2010/09/17 17:36:13	状態	未検討
登録者	umesan	<input type="checkbox"/> ロック	
最終更新日時	2012/02/16 15:17:40	<input checked="" type="checkbox"/> 再検討が必要	
最終更新者	要求 太郎	<input type="checkbox"/> 承認済み	
		承認者	

At the bottom of the dialog, there are buttons for "変更元要求(R)", "上(U)", "下(D)", "OK(O)", "キャンセル(C)", and "適用(A)". The "再検討が必要" checkbox is highlighted with a red box.

図 49

この「再検討が必要」にチェックが入っている場合には、この要求項目が、他の要求項目の変更の影響を受けた状態であることを表します。チェックを外すことで、再検討が完了したことを示します。しかし、影響元の要求の変更の直後に、このチェックを外すことは推奨しません。なぜならば、このチェックが入っているのは、依存する要求が変更されたことを示しているからです。どの依存する要求が変更されたかは、再検討タブで確認することができます。再検討タブでそれぞれの依存先（影響元）の影響を確認し、必要であれば要求内容

を変更してから、再検討済みボタンを押し、再検討影響元一覧を空にしてから「再検討が必要」のチェックを初めて外すことを推奨します。

「再検討が必要」である要求は一覧では緑色で表示されます。また、「要求の関係を図示」機能を実行した場合にも「再検討が必要」である要求は緑色で表示されます(図 50)。

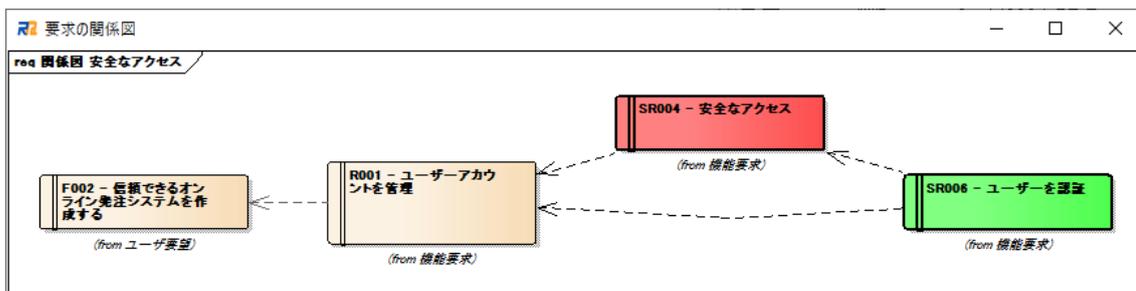


図 50

要求を変更する場合、変更の影響を受けたすべての要求を見逃さずに確認することは困難な作業です。「再検討が必要」の属性は、影響を受けた要求を確認することを忘れないようにするのに役立ちます。このようにして、要求を変更した場合でも、確認漏れを防ぐのに役立ちます。

8. 要求の見方の変更

4章で説明したようなツリーや一覧以外にも、以下のような機能を使い、要求をさまざまな形で見ることができます。

1. カスタムツリー
2. 一覧の表示項目のカスタマイズ
3. マトリックス表示
4. 要求の内容を常に表示
5. 要求の属性を一覧形式で表示

機能の詳細につきましては、機能ガイドやヘルプファイルをご覧ください。ここでは「要求を常に表示」(図 51)と「属性を一覧形式で表示」(図 52)の画面例を示します。

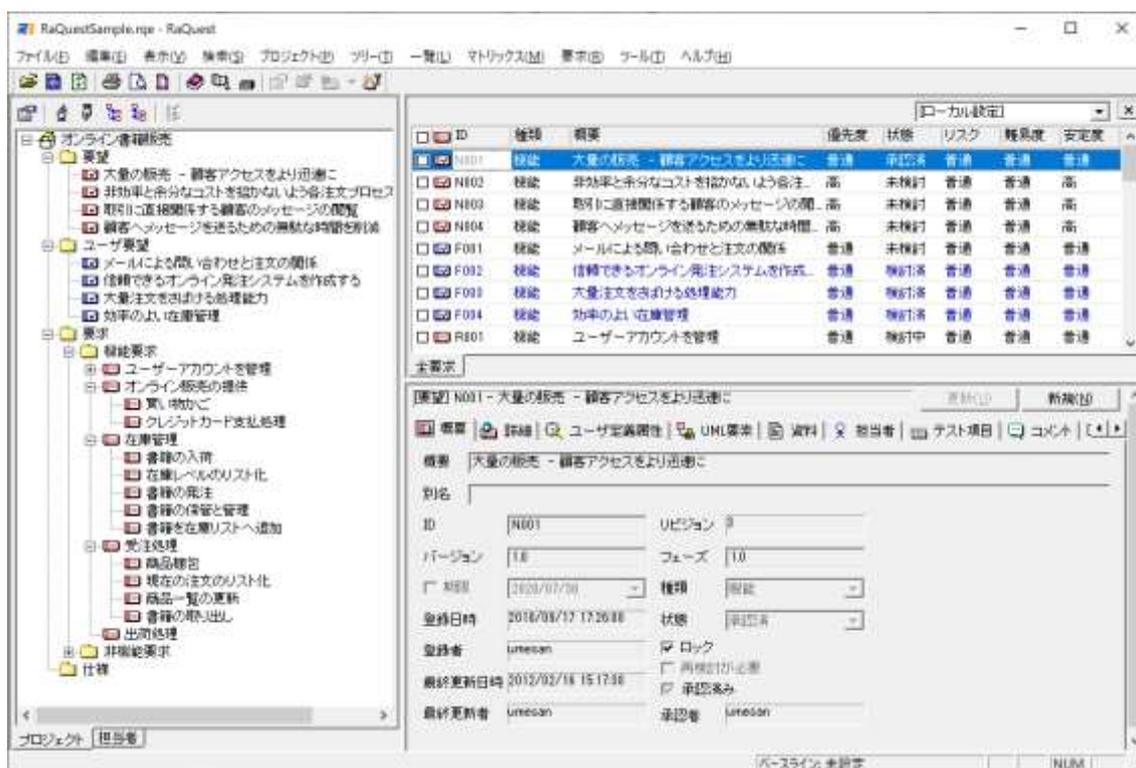


図 51

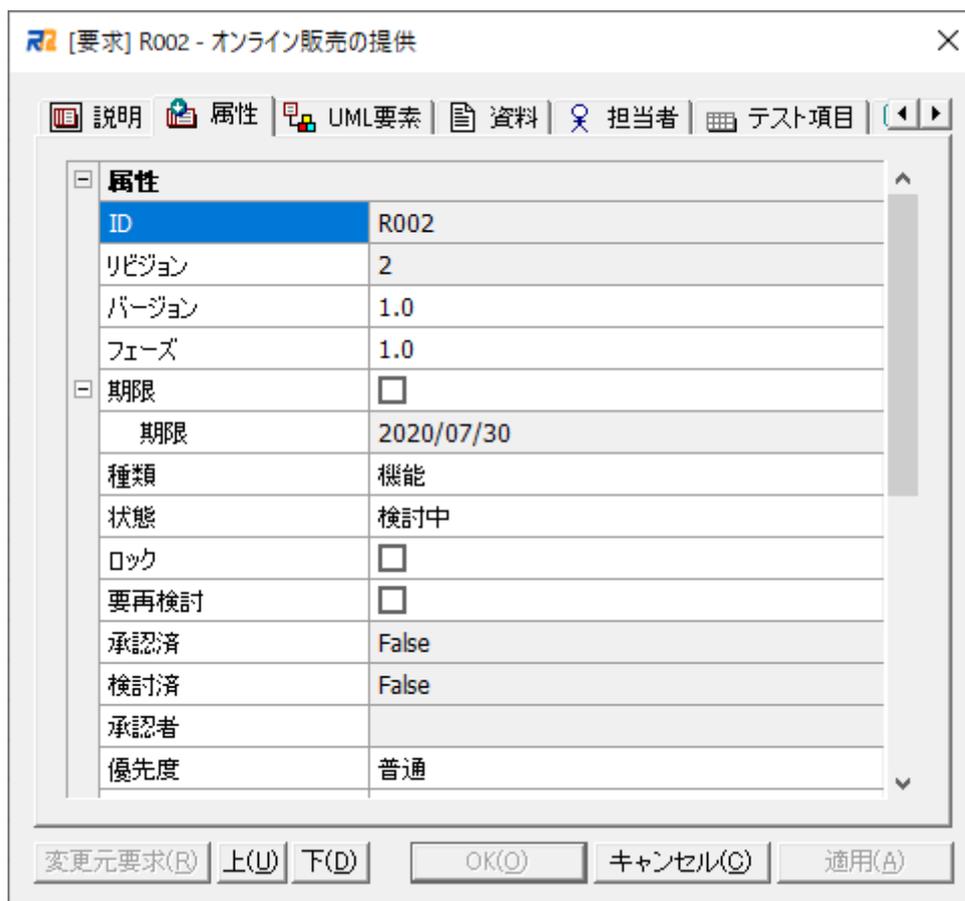


図 52

9. 要求の出力

最後に、作成した要求を出力する方法について説明します。作成した要求は、RaQuest 内で管理するのが基本ですが、検討の際や文書化したい場合など、外部に出力する必要があるケースもあるかと思います。

RaQuest では、次の 2 つの方法で出力することができます。

9.1. 印刷

RaQuest の右側の一覧は、印刷することができます。どの一覧でも印刷することができますので、要求一覧だけでなく、指定した担当者の一覧や未検討の項目一覧(TODO リスト)なども印刷することができます。

印刷する場合には、印刷する一覧のタブを指定した後、メインメニューから「ファイル」→「印刷」を実行します。

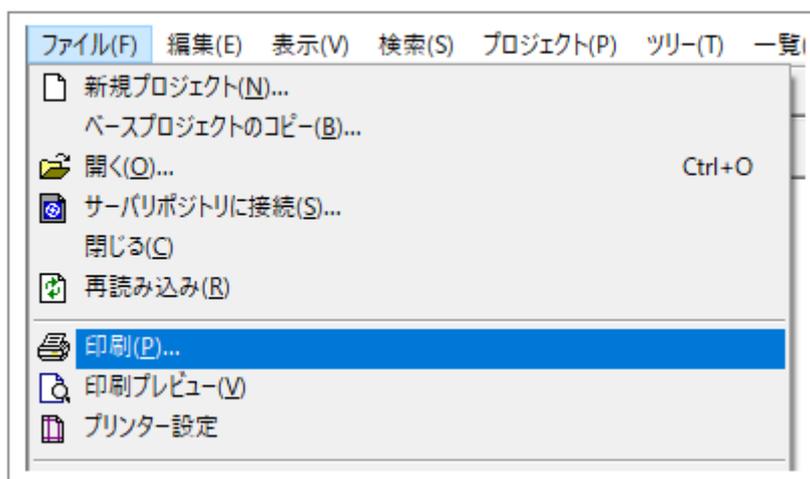


図 53

9.2. ドキュメント出力

RaQuest の要求は、以下の形式でも出力することができます。

- HTML
- RTF
- CSV
- Microsoft Excel

詳細につきましては、ヘルプファイルをご覧ください。

これらの機能を利用することにより、作成した要求項目をさらに活用することができるかと思えます。